

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### ① テーマと目標設定について

○ 各学年、設定したテーマに沿って学習を行うことができた。また、他教科の目標との関連付けをすることができた。

#### ② 学習内容の分量（無理のない計画であったか）について

○ 総合的な学習の時間や他教科と関連付けて計画を立てることである程度無理なく計画を立てることができた。

#### ③ 内容は適切であったかについて

○ 色々な角度から海についての学習を深めることができた。

○ 糸満の海が中心であるが、高嶺小学校区には、嘉手志川や与座カーなど、海以外の水資源も取り扱うことにより学習に深みができる。高嶺という地域を活かした学習を拡げていきたい。

### (2) 有効性

#### ① 計画通りに実施されたか、協力体制について

○ 新型コロナウイルス感染防止対策のため活動や計画に支障が出た場面もあったが、工夫して行うことができた。昨年同様天候に左右される活動では、前日まで実施できるかの不安があった。

○ 協力要請した外部機関は協力的で連携しやすかった。

児童の安全管理や送迎など、ボランティアで多くの保護者が協力してくれた。

○ 協力した保護者も一緒になって体験し有意義な時間を過ごしたとの感想である。

### (3) 効率性

#### ① 学習の実施時期は適切であったかについて

○ 体験学習等は関係機関との連携が必要なので、日程を調整する必要があった。関係機関が実施できる日と学校の行事が重なる場合もあり、調整を密にする必要がある。

新型コロナウイルス感染防止対策の徹底を行いながらの学習が多い。

#### ② 物資、資金などの規模や質は適切であったかについて

○ 今年度は学校予算内で可能な限りできる様に活動した。

### (4) 持続性

#### ① 学習内容や成果が適切に活用される見込みがあるかについて

○ 高嶺地域は糸満市では内陸部だり、準農村地帯でもある。海人科として、内陸部での嘉手志川や与座カーの水源の利用や南山城の歴史から海外との貿易なども地域にあった学習を取り入れたい。

○ 学習成果発表会や授業参観で保護者や地域の方々へ発信していきたい。

○ タブレット等を活用し、調べ学習や表現力の育成につなげたい。

### (5) 信頼性

#### ① 十分な体制が整えられたか、外部への公表・発信について

○ 体験学習の計画等、事前に現地に行き確認したり、外部との連携を密にし、計画を立てている。

○ 新型コロナウイルス感染防止対策を十分に取ながら学習を行う体制作り行えた。

○ 体験活動や取組の様子を学校だよりや学校HPで紹介した。また、活動の記事や作文が新聞に取り上げられることで外部へ発信することができた。

## (6) 成果と課題

### ① 成果

- 海の生き物や糸満のサバニの歴史など地域の理解につながった。また、海の環境を守る視点から発展し、水質調査などを行い身近な自然環境を守る必要性を感じるようになった。
- 高嶺小学校の立地条件から、海の資源以外にも、地域の水資源である嘉手志川や与座カーの歴史や、南山城の歴史から海を隔てた大和や中国との貿易など、学で**多面的・多角的な学習を行うことができた**。

### ② 課題

- 新型コロナウイルス感染症防止対策を工事ながらの体験活動で、教職員は緊張感の中体験や学習が行われることが多かった。

## 【その他コメント・感想】

- ・海洋教育に取り組むことにより地域のよさや海の素晴らしさに気づくことができた。
- ・高校生や各関係機関団体との交流や、体験活動をまとめて発表することで、コミュニケーション能力の育成にもつながると考える。
- ・新型コロナウイルス感染症防止対策のためコロナウイルス感染防止対策の中、活動を工夫して行う事ができた。
- ・本年度は「地域の環境や地域の歴史」、「昔の道具の工夫」、「自然や生活環境を守る」等  
他教科と関連し広げることができた。

## 3. 関係者評価

- 糸満＝うみんちゅは50代（世代）までなので、今の若年層にはピンとこないのでは。だからこそ、海洋教育は今の糸満の子ども達に必須だと思う。
- 漁港で栄えた糸満の歴史も併せて学ぶと、育ったふるさと（糸満）に誇りを持つことができるのでは。
- 水産高校、海人工房、糸満ハーレー、糸満市場など、環境は整っているので、ナイスタイミングのプログラムを活かしてほしい。
- 学習ボランティアの際に話していた子ども達から「魚を初めてさばいたよ。ビックリしたよ。」という声があった。切り身しか見たことがなかったのでしょ。
- 百聞は一見にしかず！ですね。
- 自分の子どもは、これまで糸満の海に関してあまり関心を示していなかったが、海洋教育でいろいろと調べたり、体験活動に取り組んできたことで、糸満の海について興味を持つようになってきた。
- 今後、ウニの陸での飼育体験（キャベツなどのエサをあげる体験等）や昔の糸満の漁師の漁法（例えば、GPSのない時代にどうやって遠方まで漁に行けたのか、など）など、探究的に調べる活動にも取り組んでみてはどうか。